

## 「東日本大震災アーカイブ」基盤構築プロジェクト ラウンドテーブル

### 利活用 WG 議事要旨

- 1 日時 平成 25 年 3 月 19 日（火） 10：30～12：30
- 2 場所 三菱総合研究所 会議室(大会議室 A)
- 3 出席者（敬称略）：
  - (1) 構成員  
松崎構成員（座長）、天野構成員、稲垣構成員、福島構成員、藤沢構成員、山口構成員
  - (2) 運用実証・ポータル開発事業者  
青木部長（凸版印刷）、日高主任（インフォコム）、岩田課長代理（NTT データ）
  - (3) オブザーバ
    - ①総務省  
白石課長補佐
    - ②国立国会図書館  
松本主任司書
  - (4) 三菱総合研究所  
前田
- 4 議事内容
  - (ア) 開催にあたって
  - (イ) 東日本大震災アーカイブ基盤構築プロジェクトの状況
  - (ウ) 運用実証事業結果について
  - (エ) ガイドライン案について
  - (オ) その他
- 5 議事

#### 【議題 1：開催にあたって】

- 総務省白石課長補佐及び国立国会図書館松本主任司書より、WG 開催にあたっての挨拶があった。

#### 【議題 2：東日本大震災アーカイブ基盤構築プロジェクトの状況】

- 事務局より、資料①「東日本大震災アーカイブ」ソフトウェアの開発状況を説明。

#### 【議題 3：運用実証事業結果について】

- 運用実証事業者（凸版印刷、インフォコム）より、資料②「運用実証事業報告書」を説明。

主な意見は以下の通り。

- 構成員（山口構成員）  
大変興味深く、時が経つのを忘れて入り込みそうである。感想がいくつかある。ひとつは、動画の要約や抄録での検索の話を前回指摘させていただいたが、要約や抄録は大変使い勝手がよい。ただし、検索時に写真検索のタグで開いているとキーワードを入力

しても「検索結果はありません」となってしまう。一覧で検索すれば正しく検索されるが、写真タグでも該当の動画を表示して欲しいと感じた。また、写真検索のトップページで、「No Image」と表示されているものが多い。利用者の出鼻を挫くのではないか。

国立国会図書館東日本大震災アーカイブのほうは、URLがシンプル過ぎるので、「ひなぎく」がURLに入った方がいいのではないかと感じた。

○ 構成員（藤沢構成員）

今日は見させていただき、大変勉強になった。今後の運用で継続されることが大事である。コンテンツの数や今後の継続性を考慮した場合、河北新報社は事業として実施している点、運用そのものが会社の方針と近い点から継続性が高いと感じた。他の地域もこれから10年後、20年後を考え、地元でうまく連携できる流れを考えて、是非継続的に実施して欲しい。現在、後年運用に関して議論していることはあるか。

○ 凸版印刷（青木部長）

自治体が継続性を担保できる組織と考えており、後年運用の体制に入っただけのが望ましいと考えている。それぞれのプロジェクトでは、県、または、県立図書館等に体制に入っただけよう事業を模索しているところである。自治体は手続きに時間がかかるため、粘り強く交渉していくしかないと考えているが、自治体としてはこのような支援を求められている立場であるので、前向きに検討いただけるものと考えている。まず、それぞれのプロジェクトにおいて市町村と県の間で話ができるような環境を作っていくことが第一ステップと考えている。

○ 構成員（藤沢構成員）

河北新報以外の地方紙との連携についてはいかがか。

○ 凸版印刷（青木部長）

地方紙についてもコンテンツの提供を受けており、後年運用体制の調整先でもある。地方紙だけでなく災害FM局等からもアーカイブを継続したいという話をいただいており、メディア関係も自治体とうまく組めるようなモデルはあると考える。

○ 構成員（松崎座長）

メディア関係は阪神大震災でも事例があり、そうしたところも後年運用体制の一員として視野に入れて欲しい。

○ 構成員（福島構成員）

ご説明の中でも河北新報はアクセス数も多いし、今後もその傾向は続くことが予想できる。県立図書館なども大切であるが、持続させる段階では地方紙は地元にとっての影響が大きい。地方紙、地方テレビを体制の中に入れて力がある。

陸前高田市の郷土料理のコンテンツがあったが、写真だけなのか。

○ 凸版印刷（青木部長）

ビデオも撮っている。今後はビデオやレシピを整理して掲載したいと考えている。

○ 構成員（福島構成員）

是非、お願いしたい。運用実証事業では、このような地域協同の形でコンテンツを作ったことが、とても大事なことだと思われる。これが何箇所かであると良い。

その際、写真だけでなく、作るプロセスや背景となっている風土、文化なども一緒に記録していただけると大変有意義だと思う。無形文化財としてのお祭りを残す試みもあり、いずれこのようなものが郷土料理のコンテンツなどと結びついていくのではないかと考えられる。

○ 凸版印刷（青木部長）

ワークショップの中で自主的に婦人会の方々が「やろう」と言ってくださり、これを取材させていただいたものである。

○ 構成員（福島構成員）

福島の記事で広報誌に掲載された写真が、限定公開となっているようだが何故か。(資料②P.39)

- インフォコム (日高主任)  
地元の広報誌であり、公開されているものであるが、個人情報がかかっているものは、福島PJにおいては限定公開の扱いとした。問題ない広報誌は、一般公開としている。
- 構成員 (福島構成員)  
一度活字になったものが限定公開というのは原理的にはどうかという印象を受けた。
- インフォコム (日高主任)  
その点は課題と思っている。いわき市の資料で企業からの募金額が掲載されたものがあったが、当時は公開しても良かったものが現在では非公開扱いとなっている。そういうこともあるため、それぞれのコンテンツをプロジェクトで公開してもよいか判断している。

#### 【議題4：ガイドラインについて】

- 事務局より、資料③「ガイドライン案一式」を説明。

主な意見は以下の通り。

- 構成員 (山口構成員)  
「メタデータは、エクセルを使って付与した」とあるが、メタデータとはその画像ファイルに含まれるものではなく、別のデータとして作成されるものなのか。
- 事務局 (前田)  
例えば、写真にはデジタルデータの中に位置情報などが含まれているが、アーカイブのデータベースに登録する際には、メタデータとして入力する必要がある。検索キーを設定するためには入力していただかなければならない。緯度経度など自動的に付与できる項目もあるが、地名などは手入力に対応していただくこととなる。
- インフォコム (日高主任)  
メタデータは、写真などの画像データを見ながらその属性となる情報を入力していくものである。福島PJでは、PC上の画像データのファイルパスをメタデータとして付与してあり、エクセルで入力しているメタデータと画像を関連付けることでシステムに登録される。
- NTTデータ (岩田課長代理)  
ひなぎくでは、画像データから位置情報を自動で抽出するしくみがある。ただし、メタデータをどのように組み立てるかは各サイトで考えることとなる。ひなぎくはコンテンツ量も多いため、そのようなしくみとしているが、各サイトでは、手入力でシンプルにした方がよい場合もある。
- 構成員 (山口構成員)  
画像データも加工によってオリジナルデータに付加されていた情報が壊れてしまう場合がある。
- インフォコム (日高主任)  
写真データには、撮影日が含まれているが、カメラの初期設定で1900年1月1日のままで撮影されたものもある。原本保存の原則からすると撮影日はその日付を残すこととなるが、手入力で分かる範囲で日付を入力したほうが、実際の役に立つ。どちらにするかは、サイトの運営方針として検討していく必要があると考える。
- 構成員 (藤沢構成員)

このガイドラインが次の災害が起きた時に活用されるかが大切なことと考える。それが10年後になるか20年後になるか分からない状況の中で、Webサイト、少なくともPDFの形式で公開し、使ってもらえるようにしていただきたい。

○ 構成員（稲垣構成員）

大変わかりやすくなったと思う。是非、持ち帰って中越アーカイブの制作メンバーにおさらいさせようと思う。

○ 構成員（松崎座長）

今回、支援した側の自治体を見ると非常にたくさんの記録や映像データを持っている。被災側ではなく、支援側の自治体のアーカイブも考えていただければと思う。支援計画や受援計画の策定に役立つので、総務省や国立国会図書館からお声掛けいただければと考える。活動記録がないと、5年10年経った時に復興になぜ時間がかかったのかが分からなくなる。ノウハウをひなぎくに載せていただければ、とても役立つと考える。

○ 構成員（天野構成員）

福島県では自治体のコンテンツが少ないようだが、自治体の協力が得られないことがボトルネックになっているのか。

○ インフォコム（日高主任）

福島県でも、浜通りの自治体は避難区域となっているところもあり、記録を残さなければならぬという意識が高かったため、コンテンツも多く提供いただいた。中通り、会津と内陸に入ると、すぐにコンテンツを提供するのではなく、どこまで提供するかきちんと検討し、きちんとした手続きを行うため、時間がかかっているようである。また小規模自治体の方が検討に係る時間が比較的短く済み、早くいただけることが多かった。

○ 構成員（天野構成員）

まだコンテンツは収集することになると思うが、どの範囲で収集しようとしているのが問題である。例えば、私自身災害FM局に関与しており、記録は初回から全て残っていることを知っている。しかし災害FM局にはコンテンツ提供のお声掛けは無かった。また、大規模避難所の電子記録も広告の裏に書いた紙の記録なども含めて全て残っている。アーカイブも「これほどひどい被害だったのか」というところで終わってはいけない。避難所でどんな活動をしたという記録から、今後我々がどうしていくかというところまですべて保存し公開することで、次に何かあった時の役に立つと思う。避難所の中の運営組織図がどうだったか、発生したノロウイルスにどのように対処したか等の資料が大切と思う。県の生涯学習課としても提供しなければならないという意識はあるが、自分の所属するセンターでも、歴史資料館の職員がひとりでビデオカメラを持ってインタビュー記事を撮っており、生涯学習課は予算を提供するだけに留まっている。当事者はなかなか自ら動くということが困難な場合もあるので、アーカイブ側から、ぜひもっと強く働きかけてほしい。

福島県では、県内の8mmフィルムを収集する取組を行っていた。相馬の幼稚園でビデオが見つかったという連絡を県立博物館の人が受け、2011年の2月または3月で受け取ることとなった。結局2月に行ってもらい、なんとか入手したが、3月であれば、間に合わなかった。県立博物館では、そのようなコンテンツを公開しているが、それを15分程度の映像にまとめたコンテンツがある。これは、県が著作権を持つはずであるが、そういったコンテンツは県から提供されていないようだ。

○ 構成員（松崎座長）

現場は忙しい。何かの時に意識してやらなければ、なかなかできないことと思う。

○ 構成員（松崎座長）

このようなモチベーションは、5年、10年経つと変わっていく。阪神大震災の記憶も東日本大震災が無ければ、薄れていたと思われる。

○ 構成員（天野構成員）

この震災の中で起きてしまったことの記録も大事だが、それによって生まれた知恵もある。記録を溜めておくだけでなく、そのような知恵を伝えていくことが大事である。

例えば富岡町では、被災者見守りシステムというスマートフォンやタブレットで使えるシステムを無償で提供しようとしている。そういうものがひなぎくからダウンロードできてもよいと思う。

○ 構成員（福島構成員）

ナレッジデータベースの話は最初の会合でもあって、大変刺激を受けた。次の備えのため使えるようにすることが大切である。システムの主旨から言うとそのような方向性なのではないか。事業の行方は分からないが、2年後、3年後にそのような検討を行っていくことも必要なのではないか。

○ 構成員（松崎座長）

プロジェクトとしてはこれで終了となるが、発展させていくことが大事である。ワーキングメンバーの及川さんから、ワーキングメンバーでハッカソンのことはできないか、もっと使いやすいシステムにならないか（携帯で操作できる、横軸で検索できるなど）検討するなど、これからも支援ができるのではないかという提案があった。できあがったシステムを活用していく、自らの地域でPRしていくことでも支援ができると思われる。今後もMLでの話し合いでもよいので、活動を続けられればという提案があったことをお伝えしておく。

○ 総務省（白石）

大変ありがたいお話である。

○ 事務局（前田）

このワーキングで出た意見を取りまとめ、ラウンドテーブルで報告することとなっている。さらにMLでご意見をいただければ、対応を検討させていただくことになると思われる。

今後も、皆様にご承認いただければ、MLは継続したいと考える。是非、活発な意見交換の場としていただきたい。

以上